

令和元年度 マタギの地恵体験学習会

—北秋田市の農村で命をいただく—

活動報告



作成 国立市教育委員会

目次

事業概要 … P2

活動報告 … P3

児童作文 … P15

保護者作文 … P23

令和元年度マタギの地恵体験学習会

—北秋田の農村で命をいただく— 事業概要

1. 事業の目的

参加者が、国立市では学ぶことができない北秋田市の文化を体験することで、国立市との文化の違いを体感し、国立市の文化についても改めて興味・関心を持つことや、森林環境学習を目的とした植林体験を行うことで、さらに新たな学びの機会につなげることを目的としています。合わせて、事業を通じ、友好交流都市協定を結んでいる北秋田市との文化交流の促進を目的としています。

2. 日程

8月16日（金）～19日（月）3泊4日

3. 実施場所

北秋田市内

4. 参加者

国立市在住の小学校4～6年生の児童11名 保護者11名（随員職員3名）
※国立市の児童以外に、北秋田市が募集した児童・生徒31名も参加。

■北秋田市と国立市について

国立市は長年、旧合川町(現北秋田市)と児童交流を行ってきました。合川地区の伝統行事である「まと火」を国立市で再現するなど交流を深め、平成30年10月に教育・文化・経済・観光等の分野において、広く市民相互の交流を図ることを目的に、「国立市・北秋田市友好交流都市協定」を締結いたしました。

■本事業の財源について

平成31年に新設された森林環境譲与税を財源として活用しています。

■マタギとは？

北秋田市が発祥とされる、狩猟をして生活する人々のことです。マタギは自然界と人間界をまたぎ、また、1年間四季をまたいで山と関わって活動をし、マタギがいるからこそ山と人間との調和がとれているとされており、クマが里に下りてこないよう山道の整備や生態系を守る活動などもしています。

※ 本報告書には、「命の学習」の一環としてニワトリを解体する写真などが含まれます。

活動報告

■ 1日目 8月16日（金）

時 間	内 容
7:00	東京駅集合
7:36	東京駅発(秋田新幹線 こまち3号)
10:39	角館駅着→乗り換え
11:05	秋田内陸線角館駅発→昼食
12:30	阿仁前田駅着
13:00	受付開始(前田公民館)
13:30	結団式 <ul style="list-style-type: none">・あいさつ・紹介・日程説明・関の声・友情の握手
14:00	マタギ弟子入り体験①(食)
17:00	夕食交流会→移動(森吉山荘)
20:00	入浴
22:00	就寝

■ 国立市から北秋田市へ

出発日早朝、国立市役所に集合した11組の親子たち。東京から秋田へ新幹線で移動し長時間の移動でしたが、北秋田市へ向かう秋田内陸縦貫鉄道の車窓からは田んぼアートや、美しい渓谷の風景など早速秋田の魅力を感じることができました。

■ 結団式

いよいよ、地元の子どもたちも含めて参加者全員が集合し、結団式が行われました。はじめに、マタギの地恵体験学習会実行委員会の佐藤慶博委員長から、「北秋田の大自然を楽しんでほしい」ということや、北秋田市の津谷永光市長からは、「風習や文化の違いを感じ取って、生きる知恵としてほしい」というご挨拶がありました。また、ニワトリを絞めることを、秋田弁でニワトリを「はやず」というお話がありました。



←秋田内陸縦貫鉄道の車窓から見える田んぼアート

↓貸切車両で、秋田内陸縦貫鉄道の彩り豊かな駅弁を食べました。



(左) エイエイオーと関の声を上げる様子。

(右上) マタギの地恵体験学習会 佐藤委員長のご挨拶

↓(右下) 地元の方々との友情の握手をして、いよいよ学習会の開始です！



■マタギ弟子入り体験①

マタギ弟子入り体験として、ニワトリの毛むしり体験や、きりたんぼ作り体験、イワナをさばく体験、山菜の皮むき体験をしました。ニワトリの毛むしり体験については、「はやした」ばかりのまだ温かいニワトリの毛をむしった後、地元の方が解体する様子を見学しました。

■夕食交流会

地元の方が調理してくれた焼き鳥や山菜炒めを食べながら、マタギの方のお話を聞きました。マタギは余分な狩りは行わず、必要な命を必要な分だけ「授かる」ということや、授かった命は新人マタギもベテランマタギもみんな平等に分け合うという話を聞きました。また、子どもたちからも「マタギは秋田県以外にもいるのか」ということや、「マタギは何種類の動物を狩ることができるのか」など、たくさんの質問が挙がりました。



↑ニワトリの毛むしりやきりたんぼ作り体験をする様子。



↓焼き鳥やきりたんぼ鍋をみんなでいただきます！



↑マタギの方のお話。背中に羽織っている毛皮はなんと秋田犬の毛皮。死んでしまった秋田犬を毛皮として大事に活用しているそうです。



■ 2日目 8月17日(土)

時 間	内 容	備考(びこ)
6:00	起床→身支度	
6:30	マタギ弟子入り体験②(自然散策)	白糸の滝
7:30	朝食→移動	
9:00	マタギ弟子入り体験③(川体験)	桜つつみ公園
11:30	昼食「ダムカレー」	四季美館
12:20	A～D班:森吉山ダム見学 E～H班:カヌー体験	四季美湖
13:50	A～D班:カヌー体験 E～H班:森吉山ダム見学	
15:10	温泉体験(クインス森吉)	
16:30	マタギ弟子入り体験④(テント設営 & 料理体験)	妖精の森
17:30	夕食交流会	
20:00	キャンプファイヤー	
20:30	星空観察会	
21:00	テント泊 就寝	

※雨天のため、行程が一部変更となりました。

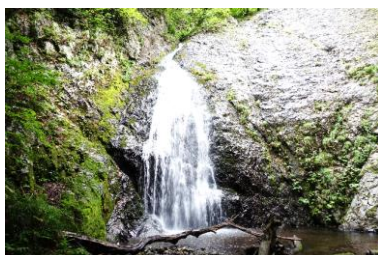
■マタギ弟子体験入り②③

マタギ弟子入り体験②では、15分ほど山を登り、白糸の滝を見学しました。

マタギ弟子入り体験③はカジカやアユなどの川釣りを予定していましたが、直前に通過した台風の影響で川が増水していたため、「風穴見学」に変更となりました。山に入ってしばらくすると大きな穴があり、真夏の蒸し暑い日に、その空間だけひんやりと冷蔵庫のような空気が流れていました。この風穴は、自然が生み出した現象だそうです。

■ダム見学

午後は森吉山ダムへ移動し、ダム職員の方にパネルや模型を使ってダムの説明や案内をしていただきました。森吉山ダムには、家庭に水を供給すること、農地に水を供給すること、河川が乾くのを防ぐこと、水力発電を行うこと、さらに大雨が降ったときに洪水を防ぐことなど、5つの役割があることを教わりました。また、ダムの地下60メートルにある監査廊と呼ばれるトンネルも歩くことができました。



↑早起きして「白糸の滝」へ。舗装されていない山道に登るのは大変でしたが、やっとたどり着いた滝は水しぶきが気持ちいい!

↓風穴を見学する様子



←お昼ご飯はダムカレー。小林悠祐さんの号令でいただきます。

↓ダム見学の様子



■カヌー体験

森吉山ダム湖のほとりにある「森吉四季美湖」でカヌーやイカダ体験を行いました。カヌーは2人ずつ、イカダは4人ずつで乗るため、参加者たちは、はじめは上手く息が合わずに進みたい方向に進めない様子でしたが、時間が経つにつれコツを掴み、協力しながらスイスイと漕ぎ進んでいました。

■マタギ弟子入り体験④

この日の夜は妖精の森キャンプ場へ移動し、自分たちで協力し合いながらテント設営に挑戦しました。テント設営が終わったあとはマタギの方が用意してくれた手作りの「豚のくんせい焼き」を食べました。夕食の後は自分たちで作った「トーチ」を使ってキャンプファイヤー。この日は雲が多く、星空は見えませんでした。キャンプファイヤーの後は地元の人が弾いてくれるギターに合わせてみんなで合唱をするなど、にぎやかに過ごしました。



← ↓カヌーやイカダを体験する様子。



↓マタギの方が用意してくれた「豚のくんせい焼き。」くんせい焼きにする装置もマタギの方の手作りです。



↑この日はみんなでテントを組み立ててキャンプ。キャンプファイヤーも行いました。

■ 3日目 8月18日(日)

時 間	内 容	備考(ひょう)						
5:30	起床→身支度→周辺散策(希望者)							
7:00	朝食→テント片付け							
8:30	植林会場へ移動(北秋田市栄字小又沢地区)							
10:00	マタギ弟子入り体験⑤(杉の植林活動)							
11:40	「コムコム」へ移動→昼食							
13:30	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">子ども</td> <td style="width: 5%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 45%; text-align: center;">大人</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px dashed black;">伊勢堂岱遺跡縄文館 地域探検学習 (~15:30)</td> <td style="border-top: 1px dashed black; text-align: center;"> </td> <td style="border-top: 1px dashed black;">北秋田市文化会館 「北秋田市民俗芸能大 会」鑑賞 (~16:00)</td> </tr> </table>	子ども		大人	伊勢堂岱遺跡縄文館 地域探検学習 (~15:30)		北秋田市文化会館 「北秋田市民俗芸能大 会」鑑賞 (~16:00)	終了後 合川学童研修 センターへ 移動
子ども		大人						
伊勢堂岱遺跡縄文館 地域探検学習 (~15:30)		北秋田市文化会館 「北秋田市民俗芸能大 会」鑑賞 (~16:00)						
16:30	夕食交流会							
18:30	「縄文の湯」へ移動	国立市親子						
19:00	入浴及び自由時間							
21:30	就寝							

※予定を変更し、大人も伊勢堂岱遺跡見学に行きました。

■マタギ弟子入り体験⑤

北秋田市と国立市が連携して実施する「都市と山村の友好の森事業」の一環として、植林体験を行いました。この事業の1年目である今年度は植林体験を行いました。2～7年目頃は苗木に支障を及ぼす雑草などの下刈り体験、それ以降も除伐や枝打ち、間伐などを経て、約50～60年後には公共建築物等に木材として利用されることを視野に入れています。

植林体験は、まず北秋田市の職員の方から植林を行うにあたっての説明や注意を聞き、国立市以外の子どもたちは地元の方と2人ペアで、国立市の参加者は親子で2人ペアになって、2,000平方メートルの敷地にスギのコンテナ苗600本を植えました。炎天下での力作業で大変でしたが、植林を終えた後は、「いつかまた秋田に来たときは植えた木の様子を見に来たい」など、自分たちの手で植えたたくさんの苗木に愛着を感じている様子でした。



■伊勢堂岱遺跡縄文館 地域体験学習

伊勢堂岱遺跡縄文館にはジュニアボランティアガイドという小学生から高校生までのガイドが在籍しており、2名のジュニアボランティアガイドが遺跡を案内してくれました。

伊勢堂岱遺跡は縄文時代後期の遺跡で、4つの環状列石（たくさんの石をサークル上に並べたもの）を主体とする大規模な遺跡です。環状列石は秋田県以外でも発掘されていますが、4つも集中しているのは他にありません。伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、2019年7月にユネスコ世界文化遺産の国内推薦候補に選定され、2021年の世界文化遺産登録を目指しています。

また、伊勢堂岱遺跡ではたくさんの土偶が見つかっており、参加者たちは土偶の人気投票を行ったり、ジュニアボランティアガイドに熱心に質問などをしておりました。

なお、保護者は「北秋田市民族芸能大会」鑑賞の予定でしたが予定を変更し、保護者も伊勢堂岱遺跡の見学を行いました。



↑伊勢堂岱遺跡を案内してくれたジュニアボランティアガイドの2人。



→ジュニアボランティアガイドのお話を熱心に聞く様子。



この日の晩ごはんはバーベキュー。
地元の方々が腕を振るってくれました。

■ 4日目 8月19日(月)

時 間	内 容	備考(ひょう)
6:00	起床→身支度	
6:30	朝食→片付け→休憩	
7:30	「縄文の湯」から移動	国立市親子
8:00	「合川学童研修センター」から移動	
9:30	A～D班:いのちの学習会(くまぐま園)	
～	E～H班:マタギ語り(マタギ資料館)	
	A～D班:マタギ語り(マタギ資料館)	
11:00	E～H班:いのちの学習会(くまぐま園)	
11:20	釣り体験(遊遊ガーデン)	
12:30	昼食	
13:20	解散セレモニー ・あいさつ ・感想発表(各班代表1名) ・講評	司会:松田
14:15	阿仁マタギ駅発(北秋田市の児童見送り)	
15:10	角館駅着→乗り換え	
15:51	角館駅発(秋田新幹線 こまち30号)	
19:04	東京駅着	
19:20	東京駅 「びゅうスクエア」解散	

■いのちの学習会（くまくま園）

クマはマタギにとって山の神様から授かる特別な動物で、このくまくま園では園長の案内でツキノワグマやヒグマを見学したり、エサを投げ与えることができました。また、展示室ではクマの骨や足跡を見学したり、園長によるクマクイズで盛り上がりました。

■マタギ語り（マタギ資料館）

マタギ資料館では、先祖代々マタギを継いでいる方からのお話を聞くことができました。「マタギ」という語源は、江戸時代の国学者・紀行家と知られる菅江真澄^{すがえまさみ}が山刀（ナガサ）をさしていた人を「万太幾」と記したことが一説にあるそうで、実際にこのマタギの方が使用している山刀（ナガサ）なども見せてくれました。また、子どもたちは実際のクマの毛皮をかぶり、爪の鋭さや、暖かさを感じることができました。



↑ 園長さんの案内でくまくま園を見学する様子。



↑ マタギ資料館で先祖代々マタギを継いでいる方のお話を聞く様子。

→ クマの毛は1本1本がしっかりしていて固い！

■釣り体験（遊遊ガーデン）

お昼前からは遊遊ガーデンで釣り体験を行いました。この日の釣り体験はお昼ごろに行ったため、通常は魚たちが寝ており釣れにくい時間帯でしたが、十分な魚を釣ることができ、地元の釣り名人も驚いたほどでした。

体験学習会のみんなで食べる最後の食事は、自分たちで釣った魚を炭火焼にしたものです。また、地元の方からは「川からいただいたお魚も大事な命です。残さずに食べましょう。」とアナウンスがありました。

■解散セレモニー

いよいよ体験会最後のプログラム。国立市生涯学習課の伊形課長からは、「インターネットでは分からない、体で感じ学ぶことができたのでは」というお話や、国立市から参加した北里鴻太郎さんや、他2名の児童から4日間で体験した楽しかったことや、学んだことについて発表がありました。



↑ 釣った魚は炭火で塩焼きにして昼食にいただきました。山だけでなく、川でいただいた命にも感謝して、いただきます！



→ 3泊4日の学習会もあっという間に終わり、地元の方々ともお別れです。東京では体験できない、たくさんの方のことを教えてくれてありがとうございました！！



↑ 解散セレモニーで、3名が児童代表として感想発表をしてくれました。



作文（児童編）

【テーマ】

マタギの地恵体験学習会を通じて
感じたこと・学んだこと

体験学習会に参加した感想	青木 由風
わたしが、この体験学習会に参加して、感じたことは、学んだことは、ふたつあります。	
一つ目は、昔の人は、便利な機械がないかわりに、生活で様々な工夫をしていてとてもすごいなと思、たことです。今は、スーパーに行けば、かん単に肉や野菜が手に入るのでも、こまご工夫をこらす必要はありません。なので、わたしも、たまには生活に一工夫いれ	
てみようかなと思いました。	
二つ目は、命の大切さについて分かったことです。にわたりの羽おしりや、自然教さくを通し、命がとれかけ大切なものを学びました。また、一日目の夕食交流会では、マダギが、むやみに動物をかるのではなく、食べられる分だけつさがる、ということや、森に入る前に体を清めるなど、マダギの方々から、森と人間が共存する大切さを学びました。	

2571 20x20

マダギの地恵体験学習会	大橋 賢二
ぼくが、マダギの地恵体験で感じたことと学んだことは、二つあります。	
一つ目は、秋田の自然です。心に残った事は、森の中の散歩です。川もきれいで、びろいろな植物の種類があつてもすばらしいかたです。国立市には無い景色でした。	
二つ目は、カヌー、いかた体験です。カヌーもいかたもや、た事が無いので緊張したけど、経験者が、一緒にやってくれたので安心しました。いかたの場合は四人でやるので、少しだけむずかしかったです。でも慣れてくると、左右の行き方がわかりました。	
秋田へ、行く機会がなかたので、マダギの地恵体験で行けて、すごくうれしいです。また、家族で行ってみたいです。ほかの、秋田の場所にも行ってみたいです。学校のみならず、秋田のことを知ってもらいたいです。	

2571 20x20

丹目 朝四時に家を出てバスで東京駅についたと
 き短気留学生の人ほどんた人なのかワクワクク
 していました。北秋田市についてニワトリのは
 やすときニワトリがかあいそうでした。
 二日目 カヌー体験の時同じ学校の同じクラスの人
 の小林君とのりました。とちうで何回も進ぶ
 向きが変更りまくりました。イカダにのる時は
 友達三人とリーダーごのりました。
 三日目 植林活動の時ほくが穴をほることをする
 ちやんとしか穴をほれなかつたけどパパが穴
 をほ、をくねかありにほくが植る役にたりま
 した。つかれたけど楽しかったです。
 四日目 最初にマタギ資料館に行か、たんだけど説
 明する人がマタギに行くことになつたので早
 初にくまのま園に行くことになりました。え
 てもあげ終えた後に見るとかあいそう思えて
 きました。

ほくは、3泊4日のマタギ地直体験できま
 した。体験ができました。その中でもバにのこ
 たものかろつあります。
 一つ目は、カヌー体験です。ほくはカヌー
 への、たことかないので、うまくできましたかバ
 配びした。でも、やってみると、以上にかん
 たんで、うまくあげたのでとてもうれしか
 かったです。
 ニつ目は、植林体験です。この日、とても
 暑くて、あんまり暑い気になうが、たけど
 やつてみると楽しくて、サクサクすすみまし
 た。金も終ちうて見てみると、とてもた。せ
 いかんがあつて、気持ちよかつたです。
 三つ目は釣り体験です。釣りは、カヌーと
 同じように、たことかないか、たか、よく
 分からず、糸を何回もかためてしまつて、
 一匹も釣るこつができませんでした。釣
 体験ができてよかったです。
 ほくは、またマタギ地直体験のおかげで、成長す
 るこつができたので、また行きたいです。

マダガ体験で学んだ事

北里 鴻太郎

ぼくはこの体験で多くの事を学びました。

その内の四つの体験や感じたことをしようか
します。

まず友達との団結です。ぼくは最初公民館
に行きました。ほとんど知らない人ばかりで
少し不安でしたが一日目に班の友達と仲良
くなり三日目ではすこしけんかがござるくら
い仲良くなれました。また大人だと楽しいな

い事も、友達がいっぱいでエサ行事一つ一つ
がとても楽しくなりました。次に鳥の羽を
しり体験です。先生がやっていたようにちよ
う戦してみました。牧場の強いにおいが
して少し苦戦しました。そしていちばん印象
にのこったのが初めをしたあとの鳥をかわ
ると温かいと言ったお礼とても熱くてびっくり
しました。もう一つは植林体験です。最初から
熱かったです。たのびや。とですると思いやるま
まんまんでした。でもそれと反対に五十年ま

きょうだい

百年生きた木への命、責任感もありました。
だから体験でも一つ一つていねいに植えまし
た。最後にマダガの人の話です。話をきくと
アイヌ民族やレッドスチンのような自然を予
りながら動物をつかまえるむだにとりない方
法をしていて、なにかつながらるとかんじま
した。またワラダのようなマダガの知んをつ
かした道具もおもしろかったです。

ぼくはこの体験をして自然の大切さがあり
がたみを改めて感じました。また動物をよぶ
んにとらない方法、は、今自然はかいか進ん
でいる世界で必要だと感じました。

マタギの地え体験学習会でぼくが初めて体
 験した事は二あります。つた魚を食べた
 事、さりたんぼを作って食べた事、にわとり
 をはやした事、新幹線に乗った事、マタギの
 人に会った事、魚を調理した事、新聞記者の
 インタビューに答えた事、満天の星空を見た
 事、植林活動をした事、カヌーに乗った事、イ
 カタに乗った事、田んぼをみた事です
 一番大変だった事は、風穴までの山道を歩
 いた事です。足がいたくてつらかったです。
 でも夜旅館で休んだら元気になりました。
 国立へ帰って来てクマについて自由研究を
 しました。マタギの人からたくさんクマの話
 を聞いたからです。新学期が始まって校長先
 生に自由研究を「すごいね！」とほめられて
 うれしかったです。
 ぼくはつりが楽しくか。たので、これからも
 つつりをして上手くなりたいです。

アビカ 20x20

ぼくは秋田に行き、また行きたいと思いま
 した。いっばいおかくれたちにも
 先生たちにも会いたいわい、いっばいなレリク
 線にものりたからです。

アビカ 20x20

マタギの地恵体験の感想

鈴木 帆介

ぼくがマタギの地恵体験でバにのこった体験は、四つあります。

一つ目は、きりたんぼを作ったことです。

きりたんぼは、つぶしたお米を木のぼうに付けてやいたものです。ぼくは、はじめにきり

たんぼを作ったので上手にできるかわからな

かったけどやってみたら上手にできました。

きりたんぼを作るのに一番たいへんだっただの

は、お米をつぶす時でした。理由は、お米を

つぶそうとするとお米がお米をつぶす道具に

くっついてうまくお米をつぶせなかったけれ

どもみんなで力を合わせたらすぐに完成しまし

た。

二つ目は、カヌーとりかだに乗ったことです。

カヌーは、一回乗った事があったので上手に

乗れたけれどいかに乗ったのは、はじめに

なのであまり上手にに乗れませんでした。カ

ヌーで一回目に友達と乗った時最初にぼくが

強くこぎすぎていきたい所にいけなかったけ

れど二回目は、いきたい所にいけました。い

かだは、四人でぼくがそうじゅうしました。

あまり上手にそうじゅうできなくていかだ回

っていったけれど回るのがおもしろかったので

そうじゅう上手にできなくてもおもしろかつ

たです。

三つ目は、テントでねたことです。下が少

しかたくてねにくかったけど時間がたつとな

れました。ぼくは、早くねようとしたけれど

外がうるさかったのでねられませんでした。

テントでねるのはひさしぶりだったのでねら

れなかったけど楽しかったです。

四つ目は、みんながながよくしてくれたこ

とです。ぼくが思ったよりみんながやさしく

ておどろきました。また来年も行きたいと思

い至した。

マタギの地恵体験学習会に行くと、思。左事
 1日目はついたらさ。そくにわとりのかいだ
 いでぎんをうしました。さいしよにし、う
 ごうしたところにもどると、お米めをつぶし
 こいれにおいのする木にまきつけやいて、
 みそをぬ。て食べたらおいしか。たです。
 2日目はカヌー体験をして順番をま。こい
 たらお父さんとでさることにな。こものすむ
 くはやく進んで風がきもちよか。たです。
 3日目は暑い中植林体験をして植えた木は20年
 後の子ども達の家の木材などにつかわれるこ
 うです。3日目の夜におふろを上がったあと外
 を見とみたらあまの川や夏の太さんかくりサ
 ソリザヤい。ばいの星が見えてきれいだ。た
 のごよか。たです。4日目はくまぐま園でい
 ろんなくまが見れたりえさをあげたら食べた
 のでおもしろか。たです。遊園がテンで釣
 ろして2ひきつれたのでよか。たです。マタ
 ギの地恵体験会を通しての感想はほくたすほ
 生物の命を頂いてい。るんだな。と思。い。ま。した。

20x20

マタギの地恵体験学習会に参加して一番感
 しか。た。こ。は、カヌーです。理由は、家に
 もカヌーはあ。る。が、手作りのカヌーは
 めて。た。た。か。ら。か。す。
 一番、思い出にのこ。た。こ。は、に。お。と。り。の
 も。を。お。し。た。こ。は。た。す。
 来。来。も。し。か。し。た。ら、自。自。ん。が。は。か。い。し。て。し。ま
 っ。て、自。自。ん。が。な。し。た。ら。か。も。し。た。い。の。で、
 も。ろ。二。度。と。に。お。と。り。の。も。を。お。し。る。こ。が。た。す。
 た。い。か。も。し。た。い。か。ら。た。す。
 十。番。う。れ。し。か。、ま。こ。と。は、マ。タ。ギ。体。験。に。参。加
 り。ま。た。こ。と。は。す。
 太。お。か。と。言。う。と。朝。の。ス。ピ。ー。チ。で、マ。タ。ギ。の。体
 験。に。行。く。と。言。う。た。ら。り。ろ。又。の。一。人。が。マ。タ
 ギ。体。験。は。す。え。た。と。思。い。た。の。で、選。が。よ。く。な
 り。と。行。け。た。と。思。い。ま。した。
 またマタギの地恵体験に参加し。たい。です。
 また、行。く。と。思。い。ま。した。5。年。生。た。の。で。四。年。生。に。お。か
 る。こ。と。も。教。育。し。て。ま。す。し、国。立。市。が。行。く。の。に。お。か
 ら。れ。て。も、短。期。チ。ャ。レ。ン。ジ。で。行。き。たい。と。思。い。ま。す。

20x20

印象に、残ったのは、ニワトリの毛をむし
 る辺りです。理由は、五小では、ニワトリを
 飼っているの、それと同じニワトリが目の
 前でかんせつを折る所を見るのがシマツクで
 した。楽しかったことば、魚をつったことで
 す。理由は、初めて魚をつるので最初は、つ
 らないと思っっていました。フリザおの先の糸
 にエサを付けてもらって、川に糸をたらして、
 しばらく待ちました。が、予想じうり、つれま
 せんでした。しかし、現地の方か、魚がよ
 つる場所を教へてくれたおかげで、フリ初
 めから初分ぐらいいしたころ、ブルブルと今ま
 でにない、しん動を感じて、必死で、ひき上
 げたら、やっといひまやマメがつかれました。
 生まれて、初めてのつり生、時間がかかりま
 した。が、成功して、楽しい思い出になりました。
 た。友達もいっばいできた、楽しいマダザの
 地恵体験でした。

アビカ 20x20

作文（保護者編）

【テーマ】

マタギの地恵体験学習会を通じて
感じたこと・学んだこと

今回、ご夕食の地恵体験に参加させて頂いて、国立市職員の皆様のご細やかな使い、また北秋田の皆様のご温かいお心使いを頂き、日常の中でおおきく存心して頂いた大切なお心遣いに出会ったことになりました。

4日間のスケジュールは非常に考えられていて内容の濃いものでした。北秋田に着いてすぐに、まだ温かい鶏の卵をむしり、余すことなく命をいただくことから始まり、最後の最後まで充実した貴重な時間でした。その充実した時間の裏には北秋田の方のご尽力があったことと感謝しました。当日は台風もあり、あいにく雨の日もありました。その中で、北秋田の皆様は事前に天候を想定して、いくつものアクティビティを用意してくださり、その中からその天候でできる最良のものを選び、あらかじめ用意した複数のアクティビティの現場の方たちと連絡を取り合い、調整してくださる事に感謝しました。

この4日間の決して短くないスケジュール

アピカ 20x20

の中で、それ以上の用意をされ、それを自ら実践すること、命をいただくという夕暮の地恵、山へ自然、すべての人、ものへの感謝の気持ちと主体感させてくれ、また、損得にとらわれず、旅の成長の為に汗を流す、この姿を見ながら、北秋田の子供達に幸せだと感じました。

また親子とともにおいしく感じる貴重な体験をさせて頂いたことに感謝します。

アピカ 20x20

マタギの地恵体験学習を終えて
 今回、マタギの地恵体験に参加する前、マ
 タギというものが、一体どんな者なのか漠然
 としたイメージでしか理解していません。たの
 ま、体験しながらマタギの地恵を学習できる
 事をもっとも楽しみました。
 実際に体験が始まると初日に鶏をさらし
 毛をむしる体験をし、日頃何げなく食べつい
 るお肉は尊い命を頂いてしるというこそ身
 を持った感じ、改めて日々、命を頂いていな
 いらは活を送っている事を思い知らされました。
 それ以降、カナヘー体験ヤテント設営を体験
 させて頂きました。参加した子供は、ほん
 とが初めて知り合った子ばかりなのに、あッ
 という間に仲良くなり、空いた時間があると
 友達とおしで遊がを考え、輪になって遊んで
 いました。みんな早く友情がめばえるのは
 きつて様々な活動を一緒に体験したからだと
 思いました。一緒に活動をしていく中で、自

20x20

然と助け合いができたからだと思います。秋
 田の学力が良いのは、成績の上下のバラツキ
 が少なく、全体的に高いレベルの児童が多い
 と聞きました。一つの事をみんなで取り組み
 それを先生方がフォローする教育システムが
 自然に北秋田市では確立されているんだと感
 心致しました。
 最終日に「秋田リフレッシュ」学園の説明
 を受け、アクティブラーニング教育を個々の
 希望に合わせて学習できる事を知りました。
 機会があれば子供にも体験させてあげたいな
 めと思っております。
 マタギの地恵体験学習会を通して一番強く
 感じた事は、北秋田市の方々が地域を活性
 化する為に違う分野の各団体が一致団結し
 ていたことです。一つのツアーで何種類もの
 体験ができた事は非常に貴重であり、このよ
 うな企画は、とても魅力的でした。マタギの
 地恵体験を実施し、支援していただいた方々
 に心より感謝しております。

20x20

①

今日のまごころ知恵集終止最も感銘を受け
 左の信 北秋田に今も残る美しい三山の風景
 正しく。以前訪れた夕陽の限界集落の道
 土煙も境を失い、秋は竹藪とつる草に始り水
 暗く人の入山を拒むがこくく正しく左が。北秋
 田の山々付木々が明るく美しく、豊か自然
 と田畑が程よく調和していらした。まごころ
 始め、多くの地元の方々の日々営み存く
 乙自然との調和を保つ存のこくくは明かす言
 次の世代を育つ思山を守ること北秋田が
 熱心な点もすくしくと感じました。感銘
 捨つる水の中古川慣習は妙くお水心、まご
 文化は伝えた心文化の一つです。体験学習
 には参加し若子供もまごころも自然と保つ存心
 信の中、左の思ひます。
 丁十の木、保水力や丁十が育つ生動物、左
 の説明の後に行。左の杉の植林に左。提
 像して、左程の重要働きは存く、子供も左に
 もまごころ作業をした。まごころ知中、木を植
 る意味や大切さ、杉の役割や用途、今日植林

②
まごころ

②

左のO2の杉が何人分の二酸化炭素を固定し
 乙く水の中が等々説明があらば、まごころ木の
 大切さを約幾つかすことまごころ左の正しく
 正しくうか。いつの日か国立も森林公園が
 正しく、子供も左が木を育つまごころ遊不。まご
 町に存ると良いまごころ。国立は都会と自然の
 交差する位置にあるまごころから。

保護者 小林 純子さん

期待より不安が大きかったのですが、終わ
 てみるとすごく充実した泊4日でした。
 初日の弟子入りではいきなりの一とりをば
 やす一体験。スーパールに行けばいろいろ部
 位があります。それがどこにどんな風につ
 いている肉なのか知らなかつたので、とても
 勉強になりました。マタギの方と話や資料館
 でみた道具、狩りの考え方も自然と生きた
 く、地恵が話まわっていてとてもすてきでし
 た。

まったく同じようには生きられません。か
 食品ロスや森林伐採による災害などが問題に
 なっている現代、少しでもマタギの知恵や文
 化を学ぶ、取り入れていけたら地球にやさし
 い生活ができるのではないかと感じました。
 出会い・挑戦・成長というテーマのもと、
 子供も保護者もぎこちない出会いから、とも
 に北秋田市の自然を体験し、親子で少しだけ
 成長し、今回の体験を生活に活かしていけた
 らと思います。

アビカ 20x20

保護者 佐藤 芙実さん

兄と妹の三人の中でも一番の甘えん坊の四
 年生の息子と親子で参加させて頂きました。
 国立では体験できない大自然の中での様々な
 活動を通してたくましくなつて欲しいという
 願いと普段はなかなか叶わない二人だけで遠
 方に泊まりがけで出掛ける機会には、息子にと
 っても私にとっても特別な時間になるだろう
 という思いがありました。

初めての事に挑戦し続ける数日間というの
 は息子にとつては想像以上に大きなチャレンジ
 だったようで、何度もくじけそうになつて
 いました。がなんとか全てのプログラムを息子
 なりに体験することができました。

帰宅してマタギ体験を基に熱心に自由研究
 に取り組む姿や、初めて自分一人で釣った魚
 を食べたことがまた釣りをしたいという意欲
 につながった事など、これからの息子の成長
 につながる沢山の種がまかれたと感じていま
 す。このような大変貴重な機会を頂き、心よ
 り感謝致します。

アビカ 20x20

私の浮かれた旅気分とは裏腹に、結団式では、この学習会の目的は、食べることはいいのちを頂いているのだと知ることだと、と聞く。その後間髪入れずに、鶏の「い」のちを断つことから始まった。また温かく柔らかい皮フに触れると、恐れで尻込みしてしまふ。逃げろ子もいる。この心の痛みが「い」のちを頂いている「い」ことを感じることなのか。マタギの文化にも心を打たれた。必要な分だけ山から頂く。獲物をとると山の神へ感謝し、なければそれが山の神の心と受け入れる。山と人と動物と、共存して生きる。感謝する謙虚に受け入れる大切さを思い出した。さらに印象深かったのは、秋田の人々である。マタギの方々は、雨の中雨具なしで子供達に山歩きさせ、朝四時から数十人分の魚を釣り集めて削った枝に刺した肉を三時間燻製し、何をすることも勤勉で遅しい。そしてどの方もこの土地を愛して、大切なものを子供達に残したい、という情熱に溢れていた。

20x20

果たして私は、国立市のために何かしたいという情熱を持てるだろうか。とふと考えた。友達作りがあまり得意ではない息子は、初めて会う子供達の輪の中に入り、立派に全てをこなしていた。帰りにどうだったか聞くと、「一番嬉しかったのは、岡君と友達になれたこと。」と満足そうに言った。親子共々、ずいぶん成長して帰ってきた気がする。

20x20

「夢の様な時間を過ごした。」
 マタギの地恵体験から帰ってきて、その言葉
 が最初の一言でした。とても濃くて有意義な
 時間を過ごさせてもらいました。あ、という
 間の三泊四日で、夢かなと思っ、てしまう位で
 す。大人になっても、こんなにほしゃいでし
 まったり、体験ができたなり、知らない事を知
 るってこんなに楽しかったな!!と、まるで子
 供に戻った様でした。

北秋田では、沢山の地元の方々、北秋田の
 魅力を伝えたという気持ち、楽しんでもら
 いたいという心がとても分かる日々でした。
 色々優しく親切にして頂き、感謝の気持ちで
 いっぱいです。

鶏の毛をむしり、触った時の温かさや感触。
 風穴の冷んやりとした空間。か又した時の水
 の音や爽快感。キャンプで食べた豚肉の薫飯
 の味。夜のトーチの幻想的な美しさ、暑い中
 植林という重大任務を果たした後の汗の心地
 良さ。短い時間での温泉。マタギの人の貴重

元 20x20

なお話。行きとは全く違う、子供達の表情。
 全部全部、忘れません!!

元 20x20

保護者 藤居 隆弘さん

今回、マツギの地志体験に参加出来た事下、
 初めて息子と二人で旅をすゝ事となりました。
 北沢田市の方々の厚い体判により、昔段々
 せてあげられない株々な事々々体験が出来ました。
 鳥を捌く体験では、色々な心配をよそに積極
 的に羽根をふしり、鳥の脚をもつ役を買って
 出、更にササニ部分も裁下引き剥がす息子の
 意外な一面に驚かされました。最初、心配顔
 から、その役割を遂げようと全うし、用ひから林
 賛されたこと、自信溢れる顔になり、その
 後の岩魚捌き、キリタシホ作りと班の中でも
 積極的に取り組んでいっすまを覚えてくれた。
 また、用ひの方々の盛り上げ上手に感心させ
 られました。翌日以降の体験では、生憎の台
 風の影響により変更で、結果として体験中止は非
 常に残念でした。他の体験では用ひとクイ
 ガコサはありながらも、楽しさ溢れる笑顔と
 見れ、自身も楽しく参加させて頂きました。
 下の子供が対象の年齢になつた時にも、是非
 参加させてあげたいです。

2020年 20x20

保護者 森口 賢二さん

おりからの台風の進路も気になりつつ小雨
 の降る中、大きな荷物を自転車のかごに乗せ
 市役所へ。バスに乗り込み東京駅から新幹
 線に乗り、角館駅で秋田内陸線に乗り換え、
 田んぼアクトに心躍らせ阿仁前田駅に到着。
 結団式もそこそこに早速マツギ弟子入り体験
 。命をいたたけという事で、マグロの解体な
 らぬ、鶏の解体。近くの河原に行き、息子の
 見守りと思。マいたところ、お父さんもどう
 ぞと言われ、私自身も鶏の羽を手でむしる作
 業を体験。全ての羽をむしられた鶏は、手で
 触るとまだ温かく、ついさっきまで生きてい
 たことを感じさせるに充分だった。その後、
 残った毛を焼くために表面を炭焼き。そして
 血抜き。内臓、肉の部位ごと解体し、鶏
 の心臓も人生で初めて手に取った。息子の反
 応はもううん、他の子供たちの反応も様々で
 、触ることすら出来なかった子もいた。しか
 しながら、生で体験、体感できる事の大切さ
 を再認識できる貴重な機会になりました。

2020年 20x20

2019/8/20

「マタギの知恵体験学習会に参加して」

北里 圭司

今回は自然も人も伸びやかな環境の中で、この北秋田市でしか出来ない様々な活動を用意して頂きました。中でも印象的だった一つは鶏の解体です。

はじめは恐々ながらも鶏の羽毛をむしっていた子供も、生きている鶏の匂いや体温を感じ目の前の命に触れ、その鶏をマタギの指導者がナイフを使って手際よく、頭から内臓まで余すことなく解体していく姿に惹きつけられ、いつの間にか身を乗り出して参加していました。私たち大人も「命をいただく」プロセスを子供たちと同じように感じ、驚き、一緒に共有することが出来ました。

いつもは子供に対し親として「教える」「育てる」というスタンスで関わることが多いのですが、今回は子供と同じ立場に立って共に「学ぶ」「共有する」ということが出来、子供の体験を通した何気ない言葉や感想からも改めて気付かされることや、自分と子供との関わりを振り返るよい機会となりました。

またマタギは熊を「仕留める」という自分本位の考えではなく、山の神様から「授かる」という精神や、シカリという現場を仕切る長も、若い新人も、授かった熊肉などの恵みを皆が平等に分配するという素晴らしい仕組みを知り、命をいただくことは命を繋ぎ、人を繋ぐということを学びました。

これらの経験や学びは今後の私達、また子供達が築いていく未来の社会においても益々重要かつ必要不可欠な物になってゆくのではないかと感じ、私にとっても子供にとってもこの体験が、かけがえのない財産になりました。

今回の体験学習会を計画から運営までご尽力を頂いた国立市、北秋田市の皆様には本当に感謝しております。ありがとうございました。

令和元年度マタギの地恵体験学習会

主催 北秋田市、北秋田市教育委員会

マタギの地恵体験学習実行委員会

共催 秋田県教育委員会

報告書作成

国立市教育委員会 生涯学習課

〒186-8501 東京都国立市富士見台 2-47-1